

大正五年四月六日第三種郵便物認可
大正七年一月二十七日印刷納本（毎月一回一日發行）

哲 學 研 究

第 三 卷 第 二 冊
第 二 十 三 號



大 正 七 年 二 月 一 日 發 行

ヤージ ユ ナブルキヤの見たる希臘輪廻思想

..... 文學士 本田義英

獨逸唯心論に於ける哲學的認識の問題

..... 文學士 田邊 元

ミカイロヴスキの社會學說の創始的價值(承前)

..... 米田庄太郎

精神物理學の職分に就いて..... 文學士 岩井勝二郎

新著紹介.....

京 都 帝 國 大 學 文 學 科 大 學 內

京 都 哲 學 會



京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

書記	委員
文學博士 寶嚴方治	文學博士 波多野精一
文學博士 小西重直	文學博士 西田幾多郎
文學博士 藤井健治郎	文學博士 朝永三十郎
文學博士 深田康算	文學士 千葉胤成
文學士 松本文三郎	文學博士 狩野直喜
文學士 野上俊夫	文學博士 米田庄太郎
文學士 植田壽藏	文學博士 高瀬武次郎

して神經過勞と分析過重といふことをば種々なる統計によりて論じてこれが匡正法をば説き、第四章及第五章は、感情の基礎的修養論で、かの前述の九情説に基づきて、これに對する内外兩方面よりの修養法をば詳細に論究せられて居る。第六章は獨立自尊、第七章は競争と友情、第八章は同情と憐憫、第九章は愛國心と偉人崇拜、而して第十章より第十三章に至る最後の四章は、眞善美の情操、宗教的情操の論であつて、これは前の第四、第五章と共に本書の眼目となつて居るものである。即ちこれに於ては先づ眞善美そのものゝ本質及びその相互の關係を論じて、これにプラグマテイズムの基礎を與へ、次に眞善美の情操の特質及其その修養法をば種々實際的生活の上より精細に論述せられて居る。次に宗教的情操の論に於ては、先づ我國及西洋に於ける宗教と教育との分離の經路を述べ、次に宗教そのものゝ本質及其その種類を論じて、佛耶兩教の特質を比較し、なほ進んで心靈の本性、自力教と他力教、教主と宇宙の大靈、この大靈と吾人の小靈との關係、宗教的情操の極致としての妙如即の感、最後に宗教の意的方面を高調して、宗教の眞義は突破なり、と斷じて、著者の所謂積極的宗教としての極樂模倣説に言及して巻を結ばれて居る。

以上は本書の一般の趣旨とその内容の大體とであるが、然しこの趣旨がこの内容によりて充分全うせられるや否やといふことは、本書の如き性質の書にありては、全くことを讀む人々の實際的感銘の如何といふことによりて定ることと思ふから、こゝにはこれ等のことは觸れずして、唯だ有益なる修養書として、これが紹介に止めて置くこととする。目黒書店發行、定價壹圓貳拾錢(世

良壽男)

寄贈書籍雜誌

- | | | |
|---|-------------|---------|
| 人間の進化 | 理學博士 石川千代松著 | 大日本學術協會 |
| 道德の根本義 | 文學士 吉田 靜致著 | 同 |
| 無門關解釋 | 文學士 紀平 正美著 | 岩 波 書 店 |
| 哲學雜誌、思潮、心理研究、六合雜誌、東洋哲學、無盡燈、東亞之光、早稻田文學、學校教育、教育、内外教育評論、教育研究 | | |
| 教育界、新公論、教育時論、東京教育、奈良縣教育、靜岡縣教育 | | |
| 時報、滋賀縣教育雜誌、岐阜縣教育、愛知教育雜誌、佐賀縣教育 | | |
| 養備教育、宮教教育、愛媛教育、 | | |

前 號 目 次

意識とは何を意味するか……………	文學博士	西田 幾多郎
客觀的心理學に就て……………	文學士	千葉 胤成
社會的正義に就て……………	文學博士	藤井 健治郎
チエーイの教育論(完結)……………	文學士	篠原 助市
美しき靈の告白……………	文學士	成瀬 無極
彙報——新著紹介……………		

會 告

近時紙價暴騰致し之に加へて印刷製本費又共に増額致し候爲め發行所の要求に依り遺憾ながら來る四月以降當分の中本誌定價並に會員會費左の通り相定め候間右様御諒承被成下度此段廣告仕候也

定 價 一 册 金貳拾五錢 送料金一錢
會 費 半年分(前金) 金壹圓四拾錢

大正七年二月一日

京 都 哲 學 會

『哲學研究』定價改定廣告

本誌『哲學研究』の儀紙價暴騰印刷費等騰貴の爲め來四月號より左の通り定價改定仕候間此段購讀者各位に謹告仕候也

一 册 金貳拾五錢 送料金一錢
六 册(前金) 金壹圓五拾錢 送料不要
十二册(前金) 金 參 圓 送料不要

大正七年二月

『哲學研究』發行所

東 京 寶 文 館

註文規

- ◎ 會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
- ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
- ◎ 振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
- ◎ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章押捺致すべくに付直に御拂込下され度候
- ◎ 見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
- ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

廣告料

一頁	金拾圓	半頁	金六圓
----	-----	----	-----

會告

- 一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 京都哲學會
文科大學内 振替口座大阪參〇六六參番

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金貳拾錢	金壹	錢	受
六冊(前金)	冊	金壹圓貳拾錢	不	申	受
十二冊(前金)	冊	金貳圓四拾錢	不	申	受

大正七年一月二十七日印刷納本
大正七年二月一日發行
第二十三號 第三卷
第二冊



京都帝國大學文科大學内

編輯者 京都哲學會

右代表者 寶嚴方治

發行者 大葉久吉

印刷者 青柳十一郎

印刷所 秀英舍第一工場

發行所 東京日本橋區本石町三丁目
(振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目
大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所

- (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、良朋堂、上田屋
- (大阪) 盛文館
- (京都) 寶文館
- (神戸) 寶文館

翹望されたる著者の講演に基ける新著は發表せられたり

東京帝國大學
文科大學講師

文學士松浦 一先生著

(最新刊)

生命の文學

布裝 全一冊

定價金壹圓六拾錢

送料金拾貳錢

本書は著者が『文學の本質』發表以來、最近東京帝國大學にて爲せし文學概論の講演に基けるものにして、無量無邊の生命を文學の神髓より探り來り、生と死との争鬪の巷に眞に生くべき道を示せり。第一講貴族的か平民的か。第二講「我」の文學的實現の綱下に深遂極みなきの秘を説けり。敢て斯學研究者の一閱を仰ぐ。

● 新 春 必 讀 の 名 著 ●

文學と人生との眞義を此の尊き文學に求めよ

京 東 ● 寶 文 館 ● 大 阪